ICたより

公益社団法人　国際IC日本協会機関紙

一人ひとりのチェンジで信頼を築く

Initiatives of Change Japan

12

発行年月日　2013年3月15日
発行所　公益社団法人　国際IC日本協会
〒160-0004　東京都新宿区四谷4-28-20
パレ・エテルネル　206号
TEL：03-6273-1428　FAX：03-6273-1429
E-Mail：info@jp.iofc.org
HP：www.jp.iofc.org

頒価　1部100円

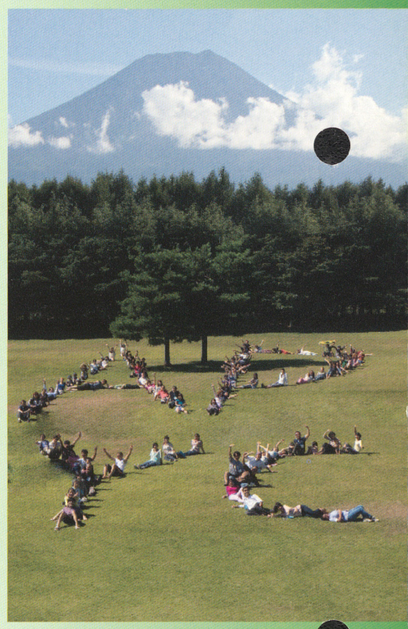
◇目次◇
INDEX

APYC2012報告
ICセミナー唐津を終えて
スイスCaux国際会議2012報告
第9回東北アジア青年フォーラム報告
ファミリーワークショップ
学校訪問　2012報告

2012年8月22日から29日まで、第１８回アジア・太平洋青年会議（ＡＰＹＣ）が富士吉田市と東京（開会式と閉会式）でNPO法人コモンビートの協力の下に開催された。海外からはイギリス、インド、インドネシア、オーストラリア、カナダ、韓国、カンボジア、台湾、中国、ニュージーランド、フィジー、ベトナム、マレーシアから36名の青年たちが来日し、日本は東北の被災地から招待した学生５名を含め、関東、中部、関西地域から参加した参加者、通訳ボランティア等のスタッフと併せ総勢約100名の参加者となった。東北での大震災を体験した参加者の生の声が参加者の心を揺さぶり、深い絆が生まれた。又、韓国や中国からの参加者と日本の青年たちが率直に日中韓の関係について語り合ったこと、フィジーの島が沈んでゆくのは私達の生活と繋がっているといった環境問題、カンボジアの内戦の悲劇、物価水準の異なる国々からの若者が自動販売機の飲料水を滞在中に購入するのにためらうなどさまざまな問題を共有し学ぶことができた。世界の貧富の差の現実を身をもって体感したワークショップ「もし世界が百人の村だったら」や、㈱アイアックインターナショナルの河野フランシス静介会長、ピースボートの吉岡達也共同代表、そして矢野弘典当協会会長による、様々な角度の視点からなる、社会、世界への貢献の在り方を学んだ講演、それぞれの創造性を引き出したドラマや音楽等々のワークショップも開催された。又、参加者に大きな印象を与えたのは、自分を深く内省する、「静かな時間」で、自分のこれまでの生き方やこれからの生き方を考える上で大きな示唆が与えられた。又、１０人余りのメンバーで行った、ファミリーグループでは、それぞれのこれまでの人生を分かち合うストーリーテリングを行い、参加者がまさに一つのファミリーとなったかのような深い絆が結ばれた。多くの参加者が「このような深い胸の内を語るという経験は初めてだった」、「自分が変わっていくことを実感した」と語り、また、「小さな行動が世界を変えることが一貫して会議の中で伝えられていたと思う。私はこのメッセージを受けとめ、実践したい。このメッセージを強く信じようと決めた」と感想文に記している。

KIZUNA 絆

最終日には一週間のその集大成として、富士吉田での会議には参加できなかった人々も加え、再び東京・代々木のオリンピックセンターで発表する舞台もあり、各々自分が次になすべき一歩を確認することができた。閉会式では、台湾のＩＣ協会のシュー・ショーフン会長が、「今日ここにいるAPYC参加者とここにいらしたお客様との共通の鼓動（コモンビート）を感じます。静けさの中からこのエネルギーが生まれました。心の奥深くから生まれて来る考えやひらめきを聴いてお互いに分かち合うことを繰り返し、過去の過ちを正す勇気を得ました。そこから明るい未来と新しい希望、そして自信が生まれてきます。21世紀はアジアの世紀と言われます。これは私達アジアの若者たちにとっては大きな挑戦の時です。一人ひとりが公平で平和で持続可能な世界を創造する為に必要とされています。私たちはこれからの世界に問題を起こすのか、それとも答えを見つけるのかのどちらかを選ぶ必要があります。今、私たちには、変革へのモデルが必要とされています。世界に起きている憎しみによる分裂、恐れ、絶望にさいなまれる人々への希望と愛と信頼の懸け橋となることが求められています。これが我々の共通のミッションだと信じています。さあ、皆さん今ここからスタートしましょう。あなたと私と共に歩みましょう。この21世紀に地球村の絆を作るために！」と述べた。



参加者の一人である、フィージーの青年の感想をご紹介する。

ケルビン・アンソニー（フィジー、学生）

“世界は一つ”

静かな時間を持つことで、自分自身を深く知る事が出来る。全ての人にとって静かな時間が必要なのだと思った。どの方向へ向かえば良いか教えてくれる。確かに疑問に対する答えは、既に自分の中にあることが解った。巨大地震と津波を乗り越えた５人の青年達の言葉からは、その痛みと無念の感情があふれ出していたけれども、どれも希望を感じるメッセージであった。色々な国からやってきた若者の話を聞いて、自分の国の存在に有難さを感じるようになった。私たちの挑戦を皆に伝えることを恐れてはいけないと思った。地球の温暖化や、民主化について良い方法を見つけること等、現実を見つめて平和へ向かって努力する為に、変革をしなければいけないと理解した。もう時間がない。

最後の閉会の日、200人以上の参加者と観客で溢れる会場が、蒸し暑さにうだるような時、「エアコンディションは使いません。太平洋の島々が沈んでいっています。私たちは今すぐ出来ることをしましょう」とアナウンスがあった。日本の人達が、フィジーの島がどんどん沈んでいくのを知って、資源を節約し、シンプルに生きようと言ってくれた時、感動して涙が溢れた。国が大きいとか小さいとか、発展しているかどうかではなく、皆が一緒に生きていることを実感した。日本もフィジーも世界は皆一緒、一つ。カンボジアの青年が言ったように、“I start, You start, We start changing together（私が変れば、あなたも変わる、あなたも私も皆が変わり始める）”これこそが世界の平和への道だと思った。

このＡＹＰＣを開催するために、（財）ＭＲＡハウスと（社）東京倶楽部からの助成金を頂いたのを始め、一般社団法人NEXCO中日本基金、そして内外の多くの方々からのご寄附を頂きました。又、企画・運営を始めとして、NPO法人コモンビートの多大なるご協力も頂きました。ここに改めて皆様のご支援を心から感謝申し上げます

第９回東北アジア（日中韓）青年フォーラム開催

▲ゲームで楽しく盛り上がる

去る７月22日～27日韓国MRA/IC主催により「大自然と共に過ごす青少年の余暇活動を推進するためには」のテーマのもと開催された。会議では、テーマについての各国からの研究発表、分科会、各国の伝統文化紹介やゲームなどが行われ、更には、ソウルの街の探訪等を通し各国からの参加者同士に深い友情が築かれた。

日本の参加者からは、「今度は中国語を勉強し、実際中国に住んでみることによって文化の違いを肌で体験し、日中韓の友好関係をもっともっと良く出来るように貢献したい」、「韓国に１年間留学していたが、今回のように多くの韓国人・中国人の人たちと一緒に何かをするという機会は全くなかったので、フォーラムの日々は本当に毎日が新鮮で楽しかった」、「今回、多くの友人というかけがえのない宝物を得た。今後はこの宝物を活かし、よりよい東北アジアの関係を築くため、３カ国の架け橋になっていきたい。そして、私の体験を学校で多くの子供たちに伝えることで、いつか架け橋となる子供も育てていきたい」等の感想が寄せられた。沖縄からの参加者からは、「沖縄には基地がとても多くあるため、海外に出たい、国際的な仕事をしたい、将来は外国人と結婚したいなどと考える人も多い。日本へ帰ったら友達にフォーラムのことを広めたいし、私自身も再び参加したいと思っている」との感想も寄せられた。

▲韓国への留学生を含めた日本チーム

▲分科会の様子

～心を育てるネットワーク～ IC セミナー　イン唐津～　報告（抜粋）

IC 佐賀タークさん　報告　トシ

去る３月３日（土）、４日（日）の両日、雄大な海が望める唐津でICセミナーを実施致しました。矢野弘典国際IC日本協会会長を始めとして総勢61名の方々にご参加頂きました。初めてのご参加の方が多く、“自分の心のありようを見つめ、自分の心を開いて人の話に耳を傾け、自分の人生を語ることで自分を整理したい・・・”そんな思いでセミナーに臨まれた方も多かったようです。矢野会長による講演「真のリーダとは」では、お人柄が感じられる内容で、参加の方々の気づきも多く話題となりました。懇親会では、仕舞「嵐山」を大嶋公子氏に舞って頂き、お祝いの気分満載、厳粛な感動と共に皆様との懇親の時を過ごしました。２日目のプログラムでの矢野会長夫人、石丸純子氏（「葉隠」の思想の紹介を含む）、リュウ・シャオユン氏（台湾）による、各々のストーリーテリングでは、お人柄とその人生に大きな感動が生まれました。実体験の迫力、素晴しさを感じた時間でした。

スイス・コー（Caux）国際会議 2012

柴田節子（通訳者）

今回参加した会議は、“個人のチェンジとグローバルなチェンジの間の重要なつながりを模索する”というテーマの会議でした。最初にICに関わった年数で参加者を分けて、各々の年代での大きな出来事、そしてその背景にある個人のチェンジについて学びました。矢野会長からも初めてコー会議に参加した頃のお話を伺いました。私たちが生きている今の時代は戦時中や終戦直後の様にドラマチックな変化を目の当たりにすることはめったにありません。時代は変わっても個人のチェンジがより良い世界を作ることに変わりはありませんが、時代や国の状況にあった活動が求められていることを感じました。その後、“対話 / 信頼醸成のための土壌づくり”のセッションに参加しました。そこでは皆が安心して自由に話しをすることのできる環境を作ることの重要性とその方法について話しました。後半は参加者が自分たちで作るセッションで、様々なテーマが提案されました。日本からも各々「家族」「あなたにとってお金とは」というテーマでセッションを行いました。今回もたくさんの若者が参加していました。会議中、「一回コーに来てもその後の活動につながらない」と嘆く人もいましたが、私はコーに来ることでその人の人生に大きなインパクトがあって、きっと周りの人たちや社会にいい影響を与える人になるはずだと思います。そういう人達が増えていくことが大切だと思いました。

“心豊かに生きるために”ファミリーワークショップ開催

心豊かに生きるために必要なコミュニケーションのとり方を学ぶ講座を開催しました。

2012年4月27日～5月2日、於富士Calmトレーナー養成講座。リュウ・レンジュ―夫妻のもと９名で実施。ファミリーマップ、１対１の対話、親への手紙、スピーチ等の手法を体験した。

9月15日、16日には第１回ファミリーワークショップを開講した。参加者6名で２日間（１日４時間）行われた。「相手への尊敬、理解、受容が人の心を開き、解きほぐしてくれること。人はアドバイスや忠告がなくとも自分で変われる力を持っていることを感じた」「参加者の多岐に渡る人生を聴き感動もし、驚きもした。自分の限られた人生では学べない事を短時間の内に体験できた」等の感想が語られた。

2012年の学校訪問について

今回の学校訪問は、２回目の参加となるケニアのマーシーさん、初めての来日となったインドのズーニーさんと韓国からのパク・スヨンさん、そして、日本人として初めてチームに加わった村岡真梨さんという４名の女性でのチームで、復興のためのボランティア活動に努める福島大学の大学生たちとの交流を皮切りに、９月24日から11月20日の約２ヶ月の間に小学校から大学まで計３２校への訪問となった。民族衣装の試着や国旗の意味の説明等、各国の文化紹介を始め、寸劇やＩＣのメッセージソングを通しての家族や他人への思いやりの大切さのメッセージ、メンバーのチェンジの体験の紹介等から成るプログラムは訪れた各校で好評を得た。

福島を最初に訪れ、仮設住宅に住む被災された方から直接地震と津波の体験をお聞きし、その後未だ住民の方々が戻れることの出来ない南相馬地域の現状を目の当たりにしたことが、このチームにもその後の学校訪問を行う上でも大きな意義を持った。これまでの、小田原市、そして、北九州市の教育委員会に加え、今回からは静岡県の教育委員会のアレンジで富士市の小学校、中学校、高校、特別支援学校各１校を訪問した。又、今回初めて、佐賀の西九州大学、広島市、なぎさ公園小学校、岐阜、恵那市立大井第二小学校、東京の太田区立道塚小学校を訪ねた。又、つくば市上郷小学校を訪ねた後、つくばインターナショナル・スクールを訪れる機会も得、同校の国際性を育むためのユニークさにも触れることが出来た。他にも、ＩＣセミナーへの参加、市長や教育長や国会議員への訪問と懇談、青年たちとの交流会等に参加するなど盛り沢山のプログラムとなった。

学校訪問を見学された教育委員会の方からは、次のようなコメントを頂いた。
「本日は、素敵な交流を実施していただき、ありがとうございました。児童や生徒のみなさんの笑顔や反応を拝見し、外国の方と直にふれあうことの大切さに改めて気付かされたひと時でした。また、ボランティアグループの皆様のすばらしいプレゼンテーションに、感動しました。全力で児童・生徒に接してくださる姿、伝えようとされている姿に、あの場にいさせていただいた全ての方々が心温まる素敵な時間が過ごせたことを心より感謝申し上げます」

又、特別支援学校の先生のアンケートには次のようなコメントが寄せられた。
「各国のボランティアの皆様のノリのよさに圧倒されることなく、体を前後に揺らして喜びを表現する生徒、満面の笑みを浮かべる生徒など、想像していた以上というよりは、驚きにちかいものがありました。普段、人前であまり発言しない（音声言語でコミュニケーションを図ることが苦手な）生徒が、挙手して発表する姿に感動しました。」

今回初めて日本人が海外ボランティアと共に参加したが、自分たちも彼女のようになりたいと多くの児童や学生が述べるなど良い結果に繋がった。又、静岡、福岡、北九州、岐阜で新聞の取材が入り、記事が掲載された。

去る１２月２６日に丸の内線「新宿御苑前」より徒歩３分の場所に移転いたしました。皆様の交通のアクセスが良くなったと思いますので、是非、新しいICオフィスにお越し下さい。又、この機にＩＣがより身近なものとなるように様々な形での皆さまのご意見や事務所活用のアイデアをお寄せ頂くと共に、是非活動にご参加頂きたいと存じます。海外から来日される方々のホームステイの受け入れ、事務所や在宅でのお手伝い、各プロジェクトの企画運営、ＩＣたよりの発行、解りやすいＩＣパンフレットの制作、ＩＣホームページのアップデイトなどボランティアとしてのご支援を心待ちにしております。

＜本年の予定＞

毎月８月を除く、第３日曜日２時より４時まで富士燦燦会（IC交流会、於：ICオフィス）
３月２～３日　唐津ＩＣセミナー
５月１４日～７月７日　海外チームを中心とした学校訪問
６月２８日～３０日　第３５回IC国際フォーラム（於：BumB東京スポーツ文化館）
８月１２日～１７日　第１０回東北アジア青年フォーラム(於：韓国)
７月～８月　第６８回スイス・コー世界大会(於：スイス)
１１月７日～１３日　インドICと共催によるＣＩＢ会議（於：インドICセンター）

他にも、インド・ＩＣセンター、インターンシップ（３か月コース）を１、４、９月に開催、２月１日～５日に第２回「民主主義を実現するために」の会議(インド)、５月１０日～１５日　アジア・太平洋連絡調整会議（ＡＰＲＧ、インドネシア）、８月１７日～２４日　第１９回ＩＣアジア・太平洋青年会議（ＡＰＹＣ、韓国）等が予定されています。

@編集後記　引越し等々でICたよりの発行が大幅に遅れましたことをお詫びいたします。今号は、昨年の主な行事をまとめてカバーしたものとなりました。又、今回の引越しに際しましては、多くの会員の方々から物心両面で支えて頂きました。ここに心よりお礼申し上げます。広報委員：岡本さくら、長野清志、弓場睦